

コミュニティ支援を意図した防災空間情報に関する研究

山家研究室 200770134 齋藤千夏

研究概要：

本研究は、地域の防災力を高めるために不可欠であるコミュニティの支援を意図して、防災空間情報にローカリティを付与し、共有するための仕組みを提案するものである。防災空間情報に関する事例調査から課題を抽出し、事例Ⅰ・事例Ⅱにおいて具体的な地域を対象に防災空間情報の表現手法を検討している。

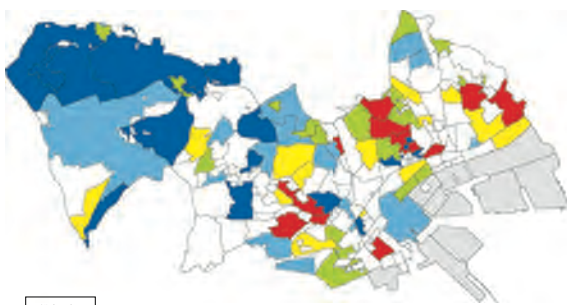
研究目的：

地域コミュニティにおける防災ネットワーク形成を意図し、地域特性を取り込んだ災害危険度の空間情報化を目的とする。

研究成果：

〔事例Ⅰ 横浜市神奈川区を対象として〕

〔事例Ⅱ 鎌倉市大町地区を対象として〕



総合評価：地震災害危険度 — 地域防災力



総合評価マップ

地域防災力	評価項目
基礎的活動力	活発度 × 活動実施状況
災害対応力	防災活動実施状況 × 訓練充実度 × 資機材充実度 × 連携力
危険度想定力	防災関心度 — 想定災害危険度
総合地域防災力	「基礎的活動力」「災害対応力」「危険度想定力」の重ね合わせ

地域防災力評価項目

自治会町内会を対象としたアンケート調査により得られた地域の防災力を空間情報化し、ハード・ソフトを融合することで、従来の危険度評価にインタラクティブ性をもたせた。

〔まとめ〕

- 1) 表現の目指す方向性が作成者側からの一方的な情報提供から、住民の主體的な防災活動を支援する方向へと変わってきており、これらの表現における共通点として知識の「ローカリティ」と「共同生成」が挙げられた。
- 2) 事例Ⅰでは、ハード・ソフトを融合した総合的評価の結果から、地域コミュニティにおける防災力が地震災害危険度に対して影響を与えることを視覚的に確認した。
- 3) 事例Ⅱでは、地域の災害危険に対する住民の意向を表現に反映させるボードゲームを作成し、実証実験を通して住民同士が地域の具体的な防災体制を「共考」するツールとしての有用性を確認した。



ボードゲーム盤



実証実験の様子

防災マップ作成ワークショップと世帯を対象としたアンケート調査から、地域固有の課題を抽出するとともに、地域の連携を意識させるボードゲームを開発し実証性を検証した。

苦勞した点や感想など：使い慣れないアプリケーションの操作と作業量に苦勞しました。